

1 高知山から見る大島海峡 (瀬戸内町)

高知山の展望台から奄美大島と加計呂麻島に挟まれた雄大な大島海峡を一望することができます。加計呂麻島をはじめ、請島、与路島、晴れた日には徳之島まで見渡せます。風光明媚なその光景は田中一村の描く色彩豊かな奄美大島の自然を目の当たりにするような美しさです。

旅
Tabi-Rurikakesu
ルリカケス
vol.49

かごしまよかとこ旅
旅ガラスのごとく広い県土を飛び回り、「かごしまよかとこ100選」に掲載された中から、お薦めの観光スポットを紹介します。

田中一村の描いた奄美の原風景をめぐる旅

日本のゴーギャンと呼ばれる画家田中一村。奄美大島の自然を愛し、描き続けた田中一村のゆかりの地を訪れてみませんか。奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町を巡り、おすすめのスポットを紹介します。



3 奄美パーク・田中一村記念美術館 (奄美市)

奄美空港近くにある奄美パークの一角に建つ田中一村記念美術館。奄美大島の伝統の建築物「高倉」をモチーフにデザインされています。奄美で生涯を終えた一村の作品を常時約80点展示。緻密で大胆な作品を見ることができます。



【所在地】奄美市笠利町節田1834

【開館時間】午前9時～午後6時
(入館は午後5時30分まで)
午前9時～午後7時(7月～8月)
(入館は午後6時30分まで)

【休館日】第1・3水曜日(祝日の場合は翌日)
※夏休み・GW期間中は無休

【交通】奄美空港から車で5分

【入館料】大人500円、大学・高校生350円、
小中学生250円 ※幼児は無料

田中一村記念美術館 ☎0997(55)2635

○ 田中 一村

明治41年栃木県栃木市に生まれる。幼いころから南画(水墨画)の才能を発揮し、18歳のときには、東京美術学校(現東京芸術大学)日本画科に入学するが、2カ月で中退。将来を囑望されながら、病気や生活苦の中で中央壇とは一線を画し、清貧の中で画業に励む。西日本へのスケッチ旅行が好機となり、奄美大島への移住を決意する。そのとき50歳。生前はその作品が世間に認められることはなく、不遇とも言える生活の中で奄美大島の自然を描き続けた。そして、昭和52年誰にも看取られることもなく、69歳でその生涯を閉じた。没後に南日本新聞などで紹介され、その独特の画風が注目を集める。

2 田中一村終焉の家 (奄美市)

田中一村は50歳のときに奄美に移り住み、この家でひっそりと69年の生涯を終えました。御殿のようだと親類に手紙を送っています。創作に情熱を燃やし、奄美の作品を描き続けた一村の住居跡を見学することができます。



【営業時間】見学自由 ※駐車場あり

奄美市紬観光課 ☎0997(52)1111



5 ぼれくら 群倉 (大和村)

高倉は、釘を1本も使うことのない古来の建築様式で建てられた奄美独特の高床式倉庫。高温多湿な気候から大切な食糧を守るためにさまざまな知恵と工夫が凝らされています。火災などから守るために人家から離れたところに建てられており、こうした高倉の集まりを群倉と呼びます。この高倉は田中一村の作品にもモチーフとして使われました。

大和村産業振興課 ☎0997(57)2111



4 きんさくぼる 金作原原生林 (奄美市)

奄美特有の植物や、生きた化石といわれる巨大なヒカゲヘゴなどの亜熱帯植物が鬱蒼と茂る原生林。運が良ければ南国の豊かな大自然の中で生息する国指定天然記念物の美しいルリカケスや、国指定特別天然記念物のアマミノクロウサギなどの貴重な生き物たちに出会えるかも。ハブもいるので油断禁物。

奄美市紬観光課 ☎0997(52)1111

★ タエン浜 (宇検村)



無人島の枝手久島を目の前に、エメラルドグリーン^{えだてくじま}の海と真っ白な海岸が広がる海水浴場。海に足を入れると珊瑚礁群^{さんごしょう}が目の前に広がり、珊瑚礁のすき間には色鮮やかな熱帯魚たちを見ることができます。

【利用期間】毎年「海の日」から9月末
9月は日曜日のみ利用できません

【利用時間】午前10時～午後5時

宇検村建設経済課 ☎0997(67)2211

「かごしまよかところ100選」スポット



()内は本のページ番号

- 1 高知山から見る大島海峡 (四季の旅 122)
- 2 田中一村終焉の家 (浪漫の旅 17)
- 3 奄美パーク・田中一村記念美術館 (浪漫の旅 16)
- 4 金作原原生林 (四季の旅 119)
- 5 群倉 (海道の旅 106)
- 6 大島紬体験 (浪漫の旅 158)
- 7 かりんとう (食彩の旅 108)



6 大島紬体験 (龍郷町)

田中一村は奄美での生計を立てるために大島紬の染色工として働いていました。大島紬は1300年という日本でもっとも長い伝統をもつ絹織物です。織り上げるには大きく分けても30以上の工程を踏み、半年近くもかかります。島内には複雑な技術が必要となる本場大島紬の製造工程が見学できる施設が多数あります。その一つ、龍郷町の大島紬村では織り体験をしたあと、自分で織った生地を使ってシュシュ(髪飾り)を作ることできます。

(取材協力) 大島紬村 ☎0997(62)3100

【所在地】大島郡龍郷町赤尾木1945

【営業時間】午前9時～午後6時(4月～9月)、午前9時～午後5時(10月～3月)

【休業日】年中無休

【料金】工場見学大人500円、小人200円、手織り体験1,000円～、シュシュ(髪飾り)作り500円～ ※午後3時30分までに入場

龍郷町産業振興課 ☎0997(62)3111



7 かりんとう (瀬戸内町)

奄美大島特産の黒糖をたっぷりを使用した、かりんとう。島内の土産物屋などで様々な種類のかりんとうを買うことができますが、製造元に行けばできたてを味わうこともできます。軽い食感と素材で風味豊かな、奄美土産定番の味をぜひご賞味ください。



(取材協力) 田原製菓店 ☎0997(72)0654

【所在地】大島郡瀬戸内町古仁屋松江12-8

【営業時間】午前8時～午後5時(売り切れ次第閉店)

【定休日】毎週日曜日

瀬戸内町まちづくり観光課 ☎0997(72)1115

※営業時間や休業日などは変更となる場合がありますので、おでかけ前に各施設にお問い合わせください。